

中国武術の身体技法と精神文化に関する研究

——武当派武術の成立と道教文化を中心として——

The Research about Physical Technique of Chinese Military Arts and Spiritual Culture

馬 晟 (Ma Sheng) 指導：寒川 恒夫教授

武術の研究において、武術や格闘技の起源については一般的に次のように語られる。すなわち、高等動物は幼児期より「遊び」による身体運動の訓練を行うことが知られている。これによって運動機能は促進され、反射神経も発達する。人間には自己の生存を目的とした闘争本能（自己防衛本能）があることにおいて、無手空手による自己防衛の防禦・攻撃の方法、すなわち拳法と同じようなものが世界の各地域（たとえばエジプト・トルコ・インド・蒙古・朝鮮・台湾・ビルマ・タイ等々）にその国または民族に特有なものとして自然発生した。これは当然とも言えるが、そのゆえにまた、その起源を明確に断定することは不可能と言わざるを得ない。人類発生より今日まで、無数の人々によって研究・工夫・継承されて現在の拳法にまで生成発展したものとするべきである。

また、スポーツ文化研究の中の「より速く、より高く、より強く」体力を競う「遊び」は、古代からスポーツとして実施されてきた。古代ローマ、ギリシヤ時代には道具、武器を使用しての競技、闘争に発展して、ルール設定と共に娯楽として普及した。同じように中国武術はるか昔、狩猟のような人類と大自然との闘いあるいは部落間の戦争の中で生まれ、一般の格闘技から昇華して武術となるまで洗練されつつゆっくりとした発展の過程を経てきた。まず、攻撃本能を満たすための出たところ勝負の格闘と生産または狩猟のための動作の原形が組み合わされたり淘汰（とうた）されたりしながら、次第に規範化された動作が抽出されて形成された。次に、一定のレベルを持つリズムと比較的安定した体の動作が組み合わされて、運動形態が形成された。これは、人類が自然を認識し続けている過程に各種な哲学が形成されてきた。それによって、様々な人間行動の形が影響されて、特有な身体技法が成立してきた。中国武術も例外ではなくて、中国精神文化の土壌から培われて来られた。すなわち、中国文化の伝統の中で培われた三つの基本観念が、武術の発展に大きな影響を及ぼしといえる。「一つは伝統的な道徳観である。義を至上とし、礼をもって人をもてなし、仁愛をもって世に対処し、国を守り民に尽くすという観念が武術世界に浸透し、武徳が形成された（道徳と武力の合一）。二つは、天と人を合し、内外を一にする天人観である。これは、闘争能力の向上のために、身体

外形を意味する外と意・気・勁を意味する内を調和させることを説き、武術の技法理論の形成に影響を与えた（調和と闘争の合一）。三つは、宇宙万物を陰陽に二類し、陰陽が相互依存、相互制約、相互転化するという陰陽観である¹⁾。

これは、陰陽の変化規律から、虚と実、速と遅、動と静などを解釈し、相手を制する法を説くものであり、武術における対人攻防理論の形成に影響を与えた。たとえ太極拳は太極説から名称を借用しただけでなく、太極拳のシステム全体に太極思想が深く関わっている—あるいは関わらせようとしているがよくわかる。太極思想ないしある特定の思想がなければ拳術は成立しないわけでもなからうが、少なくとも太極拳の場合、ネーミングに泊まらず太極思想がかなり深部まで侵入している。しかし、このような武術と宗教の関係は何時頃から結びつけるか、今まで誰もあきらかにしていない。たとえ道教の武術に対する影響をわずかに思想面や形式面に局限して、誰それは道教の何とかいう伝説、昔話を用いているとか、誰それはまた武術伝記中に道教徒を描写している等、というだけであった。これらはもちろん、道教の影響の一部である。しかしながら、身体文化の研究の中で最も重要なものは往々にして疎略に扱われているものである。それは、人間社会の哲学によって、様々な人間行動の形が影響されて、特有な身体技法は成立してきた思惟からである。そこで宗教と武術がひとたび相互の交流を始めたとき、宗教式の影響を受入れ、身体の動きを満ち溢れさせたからである。

まず序章では研究の目的として、本研究は社会歴史学と人類文化学的手法によって道教と中国武術の関係を解明しようとするものであることを述べた。次は第1章では中国武術の概説と先行研究が中国武術の各面から説明し、文化や中国文化、武術の専門用語を説明した。第2章では道教文化と道教思想の本質を論述した。第3章では張三峰と「武当派」の関係について武術伝記と歴史の記録から考証し、その結びつけを説明した。第4章では武当道教武術の内功について全般的に解明したい。第5章では武当流派の太極拳の「形」と呼吸方法の「法」を論述した。第6章では二つの観点を引き出した。一つは道教と武術の結びつけはおそらく明の時代に形成されたと考えられる。もう一つは道教思想文化が武当武術の発展に大きな影響を与えたことをした。